

第4回

第9期印西市高齢者福祉計画及び
介護保険事業計画策定委員会

会議録（要旨）

令和5年11月16日

**第4回 第9期印西市高齢者福祉計画及び
介護保険事業計画策定委員会
会議録(要旨)**

会議体の名称	第9期印西市高齢者福祉計画及び介護保険事業計画策定委員会		
事務局	印西市高齢者福祉課		
開催日時	令和5年11月16日(木) 14時00分～15時30分		
開催場所	印西市総合福祉センター 研修室		
議題	1. 開会 2. 議題 (1) 計画の骨子案について (2) 事業の進捗状況について (3) その他 3. その他 4. 閉会		
出席者	委員	川久保平一、宮崎康子、永代成日出、中島信行、松信精一◎、加藤友輔○、羽多野陽子、近藤幸一郎、柴田勇介、大内美弥子、蓮實篤裕 欠席：永田庄吾	◎委員長 ○副委員長
	事務局	澤田課長、山田課長補佐、櫻井、小塚、鈴木、佐藤 (委託業者 株式会社ぎょうせい 主任研究員小林)	

傍聴人 0名

配付資料	<ul style="list-style-type: none"> ● 資料 会議次第 ● 資料1 計画の骨子案 ● 資料2 施策の評価(案)について
------	---

【会議録】※氏名記載省略

1. 開会

(委員出席等について確認)

2. 議題

(1) 計画の骨子案について

資料1に沿って概略を説明

○委 員 41頁の第8期計画の評価について、掲載するのかしないのかどちらでしょうか。

○事務局 掲載の方法も含めて、検討している段階です。

○委 員 前計画に比べて、ボリュームが増えていると感じています。高齢者に関する市民アンケート調査については、要点だけまとめて、細かい内容については資料編にもっていくなど、本文中の内容の検討が必要だと思います。

○事務局 検討事項として承ります。

○委 員 43頁の基本理念について、非常に重要なですが、生涯現役という言葉が、一生働かされるといった意味合いに受け取っているのですが、ここではどのような意味で使っているか教えてください。

○事務局 自分らしく人生を過ごすことができるまちの実現ということで、自分の思う生活が実現できるという意味合いで使っています。

○委 員 43頁の基本理念については、受け入れやすい言葉である必要があると思います。みんながそれを体現できるような言葉に変えたほうがいいと思います。

○事務局 委員のご意見のように、現役という言葉は働くというニュアンスが強いと感じました。何点か案を作成して、次回その案を見て、皆様で決めていただきたいと思います。

○事務局 基本理念というのは、実はすごく大事な部分で、変えるとなった場合には、意味というものを考えた上でつくる必要があると思います。基本的な考え方は同じで、言葉の表現を変えるだけでいいのか、それともその定義自体を変えるのか、非常に大事な話になりますが、委員のご意見としては、どちらでしょうか。

○委 員 自分らしく人生を過ごすことができるまちということ、そこに含まれる意味は、健康寿命があり、自分らしく生涯を過ごすことができることを目指すものと、私は理解しています。

○委員長 変える必要はないと考える委員はいますか。（特にいない）。ニュアンスの問題ということでしょうか。

- 事務局 健康上の問題などで日常生活が制限されることなく、生活できることを目指すことは、今後も必要だと考えています。
- 委員長 そもそも基本理念の定義は変えずに、別の案を提示いただき、皆様と議論するということでおろしいでしょうか。（一同頷く）
- 委員 第4章の施策の展開について、第8期計画の評価が全て出されていない状況で、施策の展開の案が出ていることに違和感があります。総括が終わっていない段階で、枠組があることは納得いかないです。
- 事務局 今は枠組だけお示しさせていただき、並行して第4章にあたる各施策や事業の評価を実施しております。評価結果により中身を修正し、委員皆様の意見を反映させながら、完成させたいと考えております。
- 委員 今は箱を見せているということだったら分かります。委員会というのは、やはり中身を検討するところだと思います。そういった意味からすると、流れとして少し不適切かなと感じています。
- 委員 検討した結果で、今ある事業が削除などされるというものではなく、スライドしていくという説明に聞こえましたが、それでは文言が変わるだけで、作る意味があると思えない。そのまま載せるのであれば話し合う必要性もないと思います。評価があったものについては、しっかり掲載していただき、削除されたもの、そして追加されたものがあると、理解しやすい。それが、資料2の各事業の評価だと思っています。
- 事務局 説明が至らず、申し訳ありませんでした。委員のご指摘とおり、今は枠組だけの話となっています。このあと、施策評価シートのご説明をさせていただきます。評価をしながら策定を進めていくという流れとなります。その評価内容についても、委員の皆様の意見をいただきながら進め、枠組についても、評価によっては変えることがあると考えております。
- 委員 行政側としては、サービスの充実を図りたいと思いますが、費用に合わせて、収入をいくらとするといった計算を元にしてこの計画を組み立てるのか。それとも、収入がなければ、サービスを取捨選択するものが出てくるのか。
- 事務局 総額の費用が上がれば保険料は上がることになりますが、大幅に保険料を上げることは難しいため、介護サービスの需給バランスを見ながら、保険料を決定していくことになります。その結果、サービスを取捨選択する場合もあります。ただ、現時点で国からの保険料等の指針が出ていませんので、詳細な計算には、至っていません。指針が示されましたら、新たな事業などを加えて、保険料はどのくらいになるかというシミュレーション作業を進めていくことになります。

- 委 員 78～89頁のところで、表が出てきますが、一部年号の表記が間違っているので訂正をお願いします。気になるところは、令和12年と22年という表記が出てくるところです。逆に、数字が先行してしまうということで、ちょっと心配です。3年ごとの計画が、この段階で令和22年までの計画値を出すというのは、どうなのでしょうか。
- 事務局 年号の記載は誤りですので修正させていただきます。令和22年の表記については、国の基本指針で、令和22年まで含んで計画策定することになっていまして、表記しています。また、中間に当たる令和12年に関しては案として入れてあります。
- 委 員 2040年問題のことを言っていると思います。あと、第4章のところで、中長期の表記が出てきて、令和22年という表記もあります。その令和22年がパツといつ頃が浮かばないので、西暦を併記した方が理解しやすいと感じました。
- 委 員 介護保険料について、現在は4,700円だと思います。6,7期保険料はほぼ据え置きで来ていると思いますが、全国平均に比べると大夫低い水準になっています。ただ、事業を展開していくようになったとき、物価も上がっているので、そこを見据えて少しあげていかないと、事業が成り立たなくなるのではないかと思っています。その分、市民の皆さんのご負担が大きくなるのは分かるのですが、22年ぐらいから大幅に上がると予想される中、今から土台を作つておかないと、実際に令和22年が訪れた時が大変になると思います。
- 事務局 一般論として、物価変動が以前はなかったので保険料据え置きの傾向がありました。今後は、全国的に物価変動していく、人件費も含めて上がっていくことが予想されます。ご存じの方もいるかもしれません、2024年2月から介護人材に対する手当にあてようと、国から月額6000円の給付を出すという話があります。今後は人件費や物価上昇を含めて、介護保険料の計算をすることになると想像しています。
- 委 員 施設の中には、介護職や生活相談員、看護師、様々な職種がありますが、今言われてるのは介護職のみで、他の職種はその6000円に当てはまらないと言われています。他の職種も同じように底上げをしていくと、原資がもう持たない状態になってきています。介護報酬が上がったと言われますが、実態はずっと下がっています。施設側としては、職員の皆さんのがけがありながら施設が成り立っているということを考えると、申し訳ないですが、一部介護保険料で、皆様にご負担いただきたいと思います。また、人材育成も言われていますが、施設自体がなくなってしまっては、人材育成も成り立たなくなるので、印西市のいきいき あんしんが損なわれていくような気がしています。
- 事務局 介護保険料等に関しては、バランスを検討しながらということになると思います。貴重な意見ありがとうございます。

- 事務局 アンケートの部分を一部資料編にもっていくという話が出ていました。その点については、皆様いかがでしょうか。挙手でお願いいたします。
(挙手多数)
- 委 員 以前の会議でもあったと思いますが、印西市の特性について、印旛地域と千葉ニュータウン地域で、2極化していると思います。もう1つは、子育て世代がどんどん流入している。共生社会を考える上で、そういった2極化や子育て世代の流入などをよく分析する必要があると思います。それは、どの辺りで述べるのでしょうか。
- 事務局 委員のお話しさは、第2章の高齢者を取り巻く環境ということで、特性的な話をする部分に載せるか、もしくは、第1章の趣旨に載せるかになるかと思います。第2章で、統計的な話を載せますが、今回の計画については、高齢者福祉に特化した話を載せることが適当と考えています。
- 委 員 これからは共生社会というワードが、高齢化社会を支えることになり、高齢者、若い人、子どもといった地域住民が一体となって、今後の高齢化時代を適切に守っていきましょうということだと思います。高齢者だけでなく地域住民が主催者になるので、そこに光をあてたもの。また、現状に合わせたものが大事で、同じ印西市でも2極化している。そういった中で、高齢者を取り巻く環境というのは、元々の地域と千葉ニュータウン地域とでは全然違いますので、その辺も相当分析していかないと、適切な計画策定ができないよう感じています。

(2) 事業の進捗状況について

資料2に沿って、事業の進捗や内容について概略を説明

(3) その他

特になし

3. その他

次回策定委員会につきましては、準備が整い次第委員の皆様へ通知し、調整をしたいと思います。

4. 閉会

以上

第9期印西市高齢者福祉計画及び介護保険事業計画策定委員会第4回会議の議事録は、
事実と相違ないことを承認する。

議事録署名人 永代 成日出

議事録署名人 中島 信行